

AMDAウガンダ事務所長

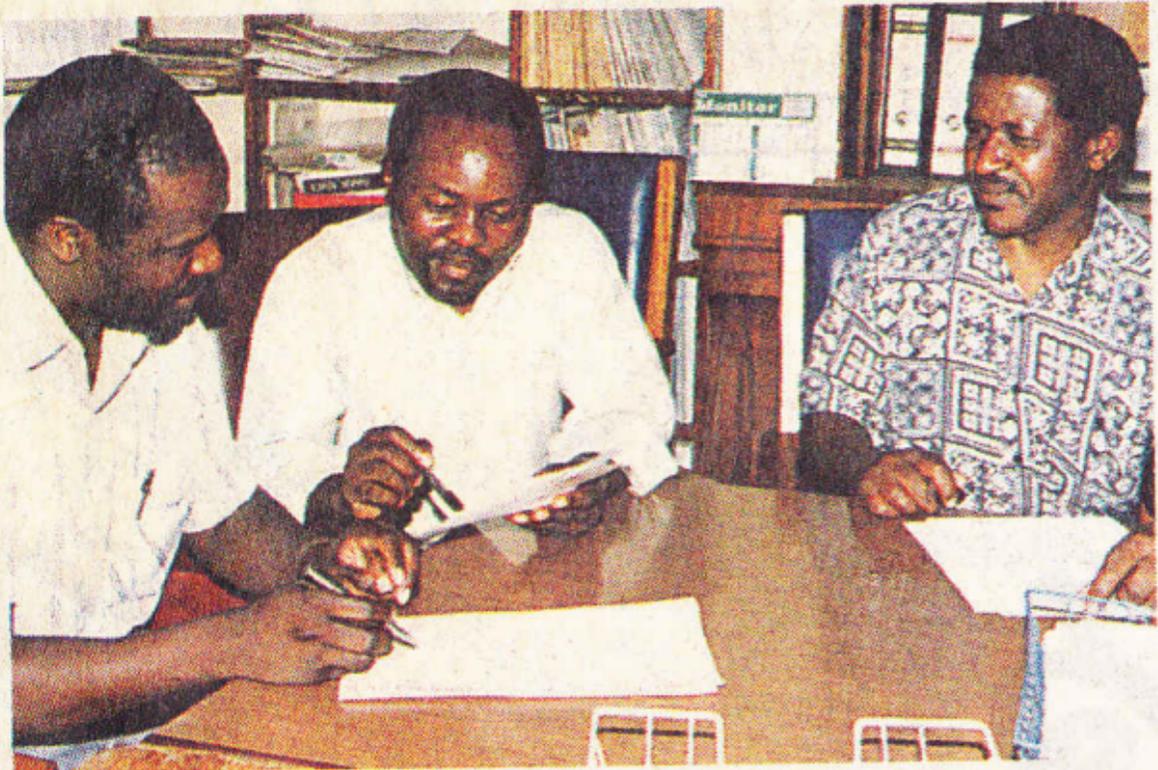
ビカンディ・マンボさん

「欧米や日本の助けを借りるだけでなく、アフリカ人の手でアフリカを救いたい」。こう語るのは、アジア医師連絡協議会（AMDA）ウガンダ事務所長、ビカンディ・マンボさん（41）。

マンボさんはコンゴ民主共和国（旧ザイール）生まれ。キンシャサ大学で化学を専攻。1986年に東京工業大に留学し、博士号を取得した。その後、千葉県内の研究所で、地熱の研究をしていたが、94年4月、ルワンダで内戦が発生。アフリカ人同士が殺し合っている姿にショックを受け同年7月、AMDAのボランティアとして難民キャンプで活動。一度は日本に帰ったが、苦悩するア

多国籍医師団結成へ奔走

フリカを救おうと、安定した日本での生活を捨て、妻、2女1男の5人家族でウガンダに渡った。アフリカ版AMDAともいえる「アフリカ多国籍医師団」結成にこぎつけ、今、AMDAがウガンダで建設を計画しているエイズ子ども病院のために、関係機関との調整に奮闘中。「アフリカが飢え、貧困から抜け出せないのは、アフリカ人に能力がないわけではないりません。植民地としての歴史や、独立後の権力者に問題がありました。平和なアフリカをつくるため、アフリカの市民の力を生かしたい」。アフリカを愛する気持ちはだれよりも強い。



多国籍医師団の結成について話し合うAMDAのマンボさん（中央）とウガンダの医師たち